

「アートを売買する場」から、「人が集まる場」へ

NODE INTERVIEW

# マーク・スピーグラー 氏

アートバーゼル／アートバーゼル・マイアミビーチ 共同ディレクター

40年もの間、景気に惑わされず毎年スイスで開催されている「アートバーゼル」。そして世界屈指のリゾート地で行われる「アートバーゼル・マイアミビーチ」。これらの大二アートフェアを指揮するのがマーク・スピーグラー氏だ。フェアのメインスポンサーの一つであるUBSグループの支援により、今年1月に来日し、東京・六本木の森美術館にて講演を行った彼が考える、アートフェアの世界基準とは？

Photo: Kazuhisa Hatanaka  
Text: Chisai Fujita



## なぜアートを買うのか、なぜ買わないのか



品を貰いに来る」といった、一部のお金持ちが来るようダメージもあります。

S ベネチアビエンナーレを見に来た人たちが、翌週から始まるアートバーゼルで買い物をする、という構図はあります。そこで「ライバー・ト・ジエット機で作品を貰いに来る」というイメージは、ある面で正しいかもしれません。

すでに欧米には成長したマーケットがあるのです。ヨーロッパはラフランス革命の頃から、マーケットとして走舊してきました。アメリカでも150年も前から、コレクターであることが一つの社会的なステータスとして評価されているのですから。

今こそ、コレクター・ギャラリーの存在が問いかれる

—世界的なアートバブルはなぜ起こったのでしょうか？

S ギャラリストやディスクを売り込む活動に力を注ぎ、投資家をはじめ、たくさんの人たちがそういった動きに注目し、オークションなどで作品を買い集め、アートバブルという流行が起りました。しかし、バブルはどこかで終焉を迎えます。今回は、昨年1月に起こった経済危機と連動するかたちではじけてしまいました。

また、アートマーケットでは国単位のブームが起ります。いつとき日本のアーティストの流行どころのあります。その後は中国、それから今は印度、次はイランが来ると言わいで、そのあとはまだわからないけれども（笑）。そもそも世界中のコレクターが一つの国に集中して作品を買っていく、という流れがあるんであります。

—不景気は空氣した今、せっかく盛り上がったマーケットがまたなってしまっては、不安ですね。

S バブルがはじける、当然マーケットは小さくなり、状況が悪わります。ギャラリストはひどい状況がます。ギャラリストはひどい状況が、ら電子メール配信に切り替えるなど、コスト削減を考え始めます。これまでただ作品を購入していた投資は全くいなくなってしまいました。

しかし、昨日12月のアートバーゼル・マイアミビーチでは、作品の質はむろん高まり、説得力のあるものがござりました。6月に開かれたアートバーゼルも、出展を希望するギャラリーやアートバーゼル・マイアミビーチでは、作品の質を考えたコレクターの方々のボクショーンを、これからも私たちは伝えいかなければなりません。バブルがはじめた今だからこそ、コレクターの存在が問いかれます。本当にマーケットができる上がっていくのです。本当に作品に惚れ込ん

でいるような人がコレクターとして残り、最終的にマーケットの固形化になってしまいます。

（笑）

そこまで世界中のコレクターが一つの国に集中して作品を買っていく、という流れが生まれているといふことです。

—日本でも現代アートのマーケットを維持するにはどうですか？

S 「なぜアートを買つか、またなぜ買わないのか」ということを、買う側も見る側も見えることが必要です。日本は限らず言えることで

すがギャラリーの仕事アートフェアをプロデュースする仕事とは、お

金のある人を探します。なぜなら、コレクターは必ずしもお金持ちとは限りません。お客様になり得る

人たちに興味をもつて販売を

ること、いたずら興味を持たせるか、どうかなどが大事です。

（うつむき度量やアートバーゼル・マイアミビーチでは、作品の質はむろん高まり、説得力のあるものがござりました。6月に開かれたアートバーゼルも、出展を希望するギャラリーやアートバーゼル・マイアミビーチでは、作品の質を考えたコレクターの方々のボクショーンを、これからも私たちは伝えいかなければなりません。バブルがはじめた今だからこそ、コレクターの存在が問いかれます。本当にマーケットができる上がっていくのです。本当に作品に惚れ込んでから）

### 【アートバーゼル40】

会場／2009年6月10～14日

### 【アートバーゼル・マイアミビーチ】

会場／2009年12月3～6日

www.artbase.com

マーク・スピーグラー (Marc Spiegler)

1968年生まれ。〔ニューヨークマガジン〕「アートニュース」、〔アート・マガジン〕「アート・マガジン」編集長。コラムニストとして活躍。2007年にアートショーン・ホルツマーと共に、アートバーゼルおよびアートバーゼル・マイアミビーチの共同ディレクターに就任。